

## ヨコハマ3R夢プランの推進について

### 1 ごみと資源の総量等の実績

#### (1) ヨコハマ3R夢プランにおける目標

ヨコハマ3R夢プラン（横浜市一般廃棄物処理基本計画）では、平成22年度から平成37年度までの16年間の計画期間とし、平成37年度までに、燃やすごみなどのごみ量に、古紙や缶・びんなどの資源の量も加えた「ごみと資源の総量」を、基準年度である平成21年度に比べ10%以上削減するとともに、「ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス」を50%以上削減することを目標に掲げています。

また、ヨコハマ3R夢プランを着実に推進していくため、平成25年度までの4年間の推進計画では、中期目標として「ごみと資源の総量」を3%以上、「ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス」を10%以上削減することとしています。

#### (2) 平成24年度の実績

##### ア ごみと資源の総量

平成24年度は、平成21年度に比べ2.25%以上削減することを目標としていました。

平成24年度の「ごみと資源の総量」は、約127万5千トンで、平成21年度に比べ、約6百トン減少（▲0.04%）しました。

内訳として、家庭系の総量は、約91万8千トンで、約1万5千トン減少（▲1.6%）し、事業系の総量は、約35万7千トンで、約1万4千トン増加（4.2%）しました。

表1 平成24年度のごみと資源の総量

【単位：トン】

	ごみと資源の総量						
		家庭系			事業系		
		ごみ量	資源化量 <sup>※1</sup>		ごみ量	資源化量 <sup>※2</sup>	
24年度	1,274,815	917,861	605,600	312,261	356,954	313,572	43,382
21年度差	▲ 629 (▲0.04%)	▲ 14,972 (▲1.6%)	▲ 5,699 (▲0.9%)	▲ 9,272 (▲2.9%)	14,343 (4.2%)	▲ 4,857 (▲1.5%)	19,199 (79.4%)
21年度 (基準年度)	1,275,444	932,833	611,299	321,533	342,611	318,429	24,183

※1 家庭系の資源化量は、行政が回収した資源化量と資源集団回収量の合計です。

※2 事業系の資源化量は、学校給食残さの資源化量と事業者が生ごみやせん定枝を資源化した量の合計です。

※ ( ) 内数値は、21年度との比を示しています。

## イ ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス

平成 24 年度は、平成 21 年度に比べ 18% 以上削減することを年次目標としていました。

なお、中期目標は、「平成 21 年度に比べ、平成 25 年度に 10% 以上削減」ですが、平成 22 年度に 18% 以上削減した実績がありますので、この年次目標を設定したものです。

平成 24 年度の「温室効果ガス排出量」は、約 25 万 5 千トンで、平成 21 年度に比べ、約 2 万 7 千トン減少（▲9.6%）しました。

表 2 平成24年度の温室効果ガス排出量 【単位：万トン(CO2換算)】

		温室効果ガス排出量
24年度		25.5
	21年度差	▲ 2.7 (▲9.6%)
21年度 (基準年度)		28.2

### (3) 平成 25 年度の状況（4、5月のごみと資源の総量）

平成 25 年度は、平成 21 年度に比べ 3 % 以上削減することを目標としています。

平成 25 年 4、5 月の「ごみと資源の総量」は、約 21 万 6 千トンで、平成 21 年度に比べ、約 2 千トン増加（1.0%）しました。

内訳として、家庭系の総量は、約 15 万 9 千トンで、約 1 千トン減少（▲0.5%）し、事業系の総量は、約 5 万 7 千トンで、約 3 千トン増加（5.5%）しました。

表 3 平成25年4、5月のごみと資源の総量（速報値） 【単位：トン】

	ごみと資源の総量						
		家庭系			事業系		
		ごみ量	資源化量※1		ごみ量	資源化量※2	
25年度	216,120	159,280	105,150	54,130	56,840	50,890	5,950
21年度差	2,126 (1.0%)	▲ 833 (▲0.5%)	324 (0.3%)	▲ 1,157 (▲2.1%)	2,960 (5.5%)	▲ 77 (▲0.2%)	3,037 (104.3%)
21年度 (基準年度)	213,994	160,113	104,826	55,287	53,880	50,967	2,913

※1 家庭系の資源化量は、行政が回収した資源化量と資源集団回収量の合計です。

※2 事業系の資源化量は、学校給食残さの資源化量と事業者が生ごみやせん定枝を資源化した量の合計です。

※ ( ) 内数値は、21年度との比を示しています。

※ 平成25年度（速報値）は、10トン未満四捨五入しています。

## 2 「ヨコハマ3R夢プラン」次期推進計画の策定

### (1) 趣旨

平成25年度までの推進計画における取組状況、課題等を踏まえ、平成26年度以降の次期推進計画の策定に向けて、「横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会」等の御意見をいただきながら検討を進めています。

### (2) 内容

「計画目標」や「具体的施策」等を盛り込んだ、平成26年度から概ね4年間の次期推進計画を策定します。

計画目標は、「ごみと資源の総量」及び「ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス」の削減数値を設定します。

### (3) 主な施策

#### ア 3Rの推進

- ・ 生ごみの水切りの徹底や、手つかず食品等の更なる削減。
- ・ 生ごみの資源化に向けた検討の推進や、資源化可能な古紙・プラスチック類に重点を置いた更なる分別・リサイクルの徹底。
- ・ 小型家電リサイクル法の施行に伴う有用金属等の回収・リサイクル。
- ・ 市民や事業者の皆様に対する分かりやすい情報提供。

#### イ 安心と安全・安定した適正処理の推進

- ・ 市民ニーズの多様化に合わせ、ふれあい収集等の需要の増加に引き続き対応。
- ・ 東日本大震災を踏まえた焼却工場や最終処分場等の防災対策や放射線対策の充実。
- ・ 焼却工場の安定稼働に向けた長寿命化等の推進。
- ・ 南本牧最終処分場第5ブロックの新規開設まで更なる処分場の延命化。

### (4) 横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会での主な御意見

- ・ 「ごみと資源の総量削減」だけに限らず、リサイクルや適正処理の推進など、取組の成果を多面的に評価することが重要。
- ・ 実績を多面的に分析することは、「今後、実施する行政施策を考えること」と、「市民に対して取り組んでいただきたいことを説明すること」の二つに活用できる。
- ・ 家庭から出されるごみについて、生ごみの水切り実践や剪定枝の出し方の工夫などに取り組んでいる。  
また、買い物レシートもその他の紙に分類する等、地域では分別を徹底している。家庭ごみの中から、さらに何が減量できるのか、今後検討していく必要がある。

(5) 今後のスケジュール（予定）

平成 25 年 11 月	横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会
12 月	市会・常任委員会 素案に対する市民意見募集
平成 26 年 2 月	市会・常任委員会
3 月	横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会 ヨコハマ 3 R 夢プラン次期推進計画の策定